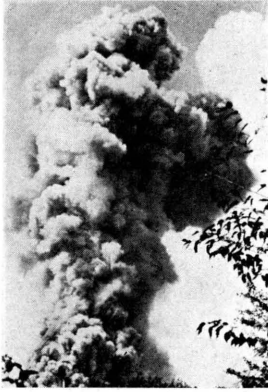
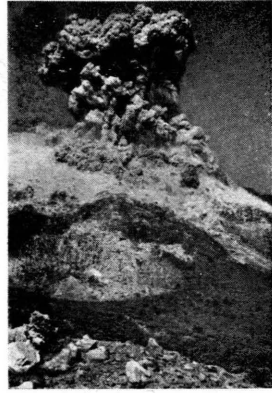


昭和14年 櫻島噴火寫眞
10月~11月

新火口の噴煙



1. 10月26日12時40分過ぎ
(煙の高さ約309米, 南西300米の地點から撮影)



4. 10月28日9時20分
(鍋山との鞍部から撮影)



2. 10月26日13時32分頃
(南西200米の地點から撮影)



5. 10月28日午後
山麓まで煙の堤が続いてゐる



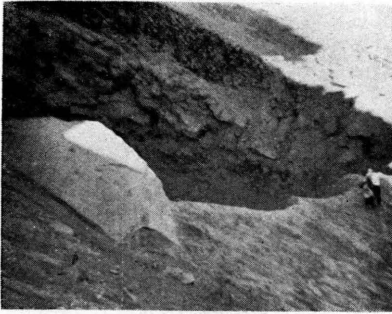
3. 10月26日正午過ぎ
左の白煙は南岳火口, 右は新火口
(櫻島有村部落より望む)



6. 10月28日午後
新火口から出る煙の堤

昭和14年 櫻島噴火寫眞
10月~11月

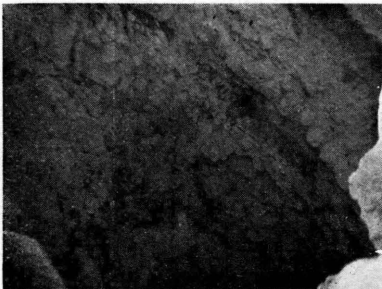
新火口と噴煙



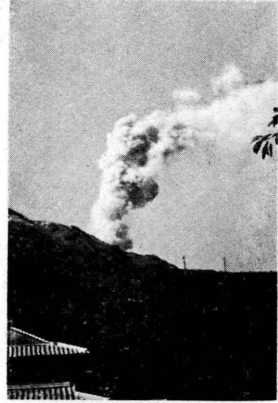
7. 新火口上部
(11月12日撮影)



8. 新火口中部



9. 新火口下部



10. 10月30日16時
(有村から撮影)



11. 10月31日16時
噴出の初期(有村から撮影)



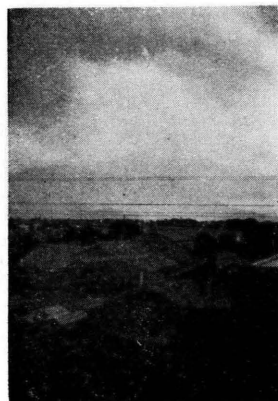
12. 新火口の山麓と
鍋山との鞍部に於ける噴氣

昭和14年 櫻島噴火寫眞
10月～11月

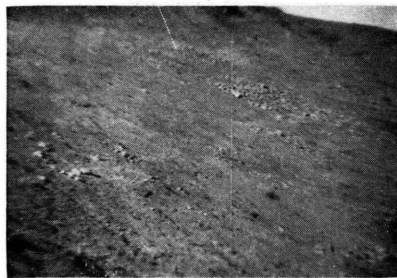
噴出物・崩壞物と被害



13. 落石群



16. 鹿児島に向ひ來る
火山灰(11月3日)



14. 落石群



17. 新火口の下方谷間に於ける噴出物
(白く堆積してゐる部分)

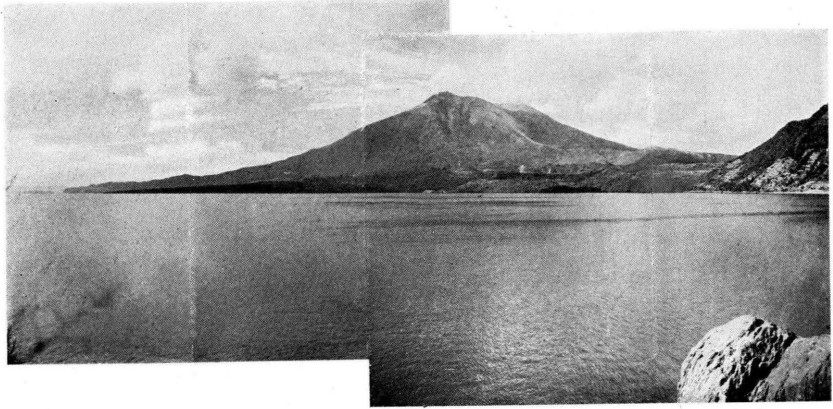


15. 落石群



18. 黒神上方の山火事跡、芒原の燃え跡
(鹿児島測候所報告附圖)(其の3)

昭和 14 年 櫻 島 噴 火 寫 眞
10 月 ~ 11 月

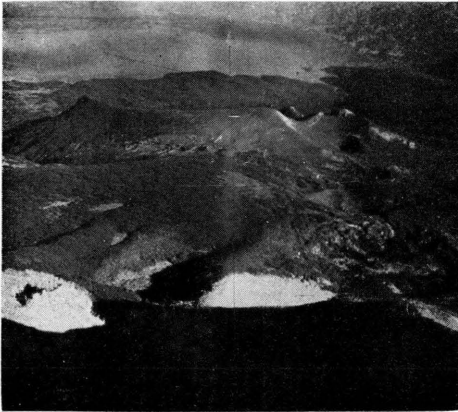


1. 大隅半島脇登村附近から見た櫻島

頂上の南岳火口から白煙があがつてゐる、右側斜面上部の
新火口から噴氣はあがつてゐない

前方海岸に沿うて廣く發達してゐるのは大正熔岩流である

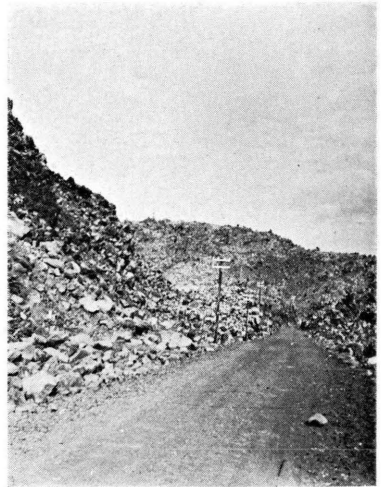
(昭和 14 年 11 月 16 日 12 時 45 分撮影)



2. 鍋 山

白状火山の形があらはれてゐる、同火山右側斜
面から手前に大正噴火の火口が二三見える

(昭和 14 年 11 月 13 日 15 時 30 分頃新火口
下方から撮影)



3. 大正熔岩地帯

有村・「戸柱の鼻」間

(昭和 14 年 11 月 16 日撮影)

昭和 14 年 櫻 島 噴 火 寫 眞
10月~11月



4. 新火口内壁下部

上部は熔岩層と火山灰砂礫層との互層、
下部は火口底附近の火山灰砂層、この兩
岩層の境界部左方に白色噴氣があがつて
ゐる

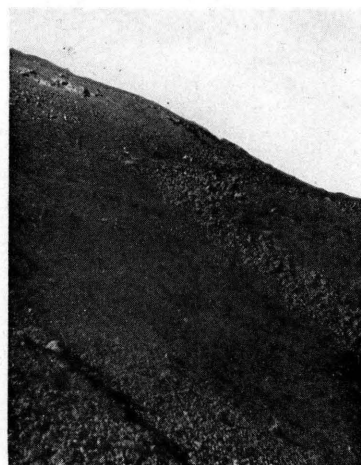
(昭和 14 年 11 月 13 日 15 時撮影)



5. 南岳火口底

火口底に水溜りが見え、向側と手前の
火口内壁から白色噴氣があがつてゐる

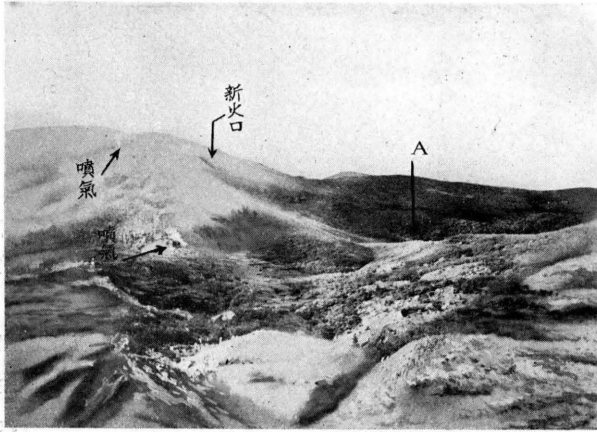
(昭和 14 年 11 月 15 日 13 時 40 分撮影)



6. 新火口附近急斜面上の落石

(昭和 14 年 11 月 13 日 14 時撮影)

昭和14年 櫻島噴火寫眞
10月~11月

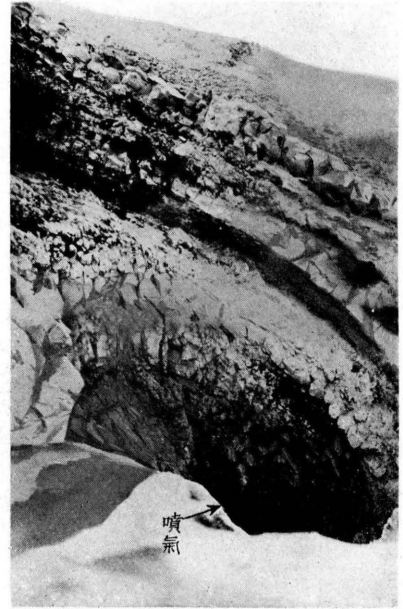


← 1. 新火口上方の噴氣のある岩壁は馬蹄形舊爆裂火口上部内壁，その右下方に新火口がある．噴出物等はこの附近から右下方のAに向つて山の斜面を流下し，Aから右方に折れた

(昭和14年11月南岳三角點東方海拔391米の地點から撮影)



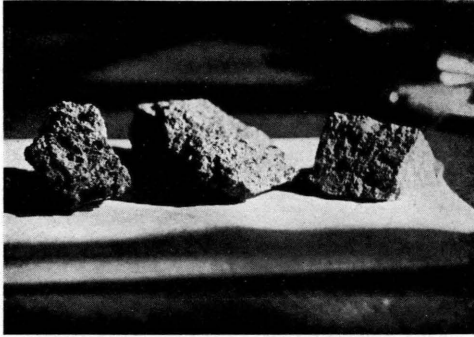
← 2. 新火口の外觀



3. 新火口の内部

昭和14年 櫻島噴火寫眞
10月~11月

抛出岩片と山林の被害



4. 新熔岩と舊熔岩

左端は新熔岩，中央と右端は舊熔岩，中央は南岳頂上の露頭岩片，右端は新火口内壁の熔岩片



5. 灌木林中の抛出落下岩片

岩片が火山灰砂地の山の斜面に埋まつてゐる，木は「やしやぶし」である



7. 山林の被害 (1)



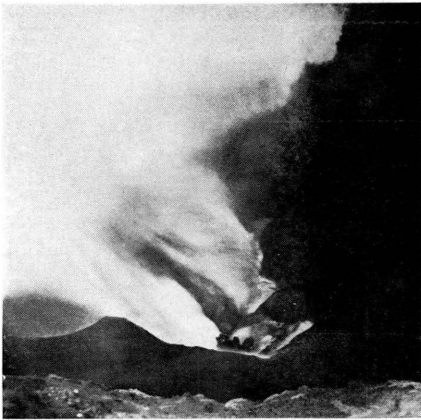
6. 抛出岩片に切られた松の木

ボールの左に切られた松の木の株があり，右に切りとられて斜下方に向つて倒れた部分が見えてゐる

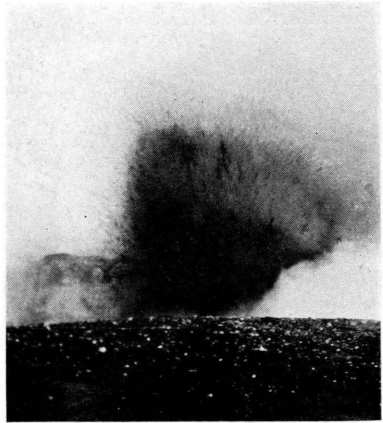


8. 山林の被害 (2)

昭和8年2月阿蘇火山の活動(其の1)



1. 昭和8年2月11日正午第1火口B孔の噴煙
(第1火口南西壁上のお
みくじ箱附近から撮影)



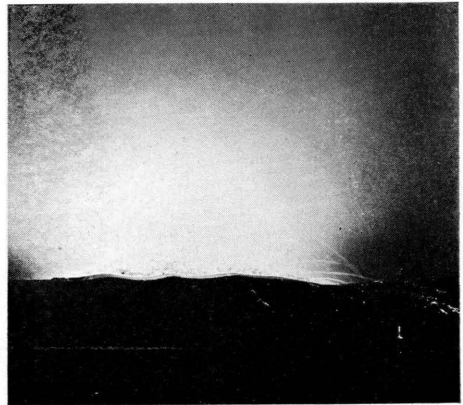
2. 昭和8年2月24日16時30分頃
の第2火口爆發の瞬間
(第2火口西方外輪山か
ら濃霧の晴間に撮影)



3. 昭和8年2月24日16時33分頃の第2
火口爆發の瞬間

熔岩塊が打上げられてゐる。附近に點々白く見えるのは落下した熔岩塊である。左手に見える木柵は昭和6年11月 聖上陛下が御野立遊ばされた御所で熔岩のため破壊されてゐる

(第2火口西方外輪山から濃霧の晴間に撮影)



4. 2月25日22時20分第2火口の爆發夜
景

火口上がバツト明るくなつてゐる。右側に落下した赤熱熔岩が見える

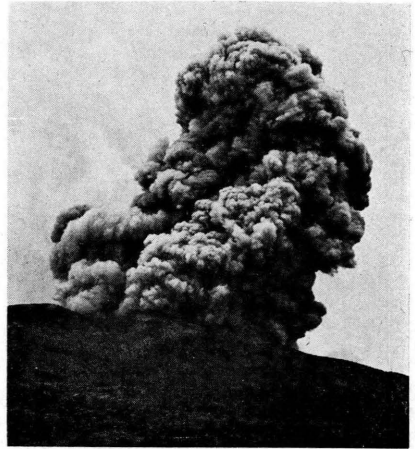
(山上神社南脇の高地から撮影)

昭和 8 年 2 月阿蘇火山の活動 (其の 2)

第 2 火口 第 1 火口
↓ ↓

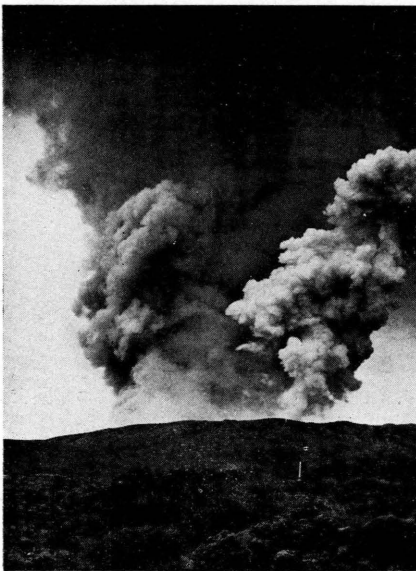


5. 火口縁上の被害
左側は甘酒茶屋の焼跡

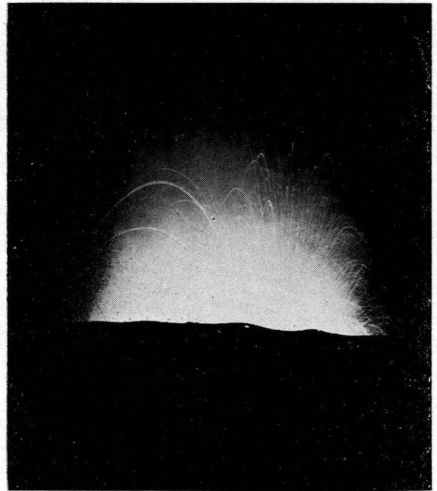


6. 第 1, 第 2 兩火口の噴煙
第 1 火口は黒煙, 第 2 火口は白煙
(2 月 27 日 8 時 舊登山道馬の背越避難所
から撮影)

第 1 火口 第 2 火口



7. 第 1, 第 2 兩火口の噴煙
第 1 火口は黒煙, 第 2 火口は白煙
(2 月 27 日 13 時 山上本堂北から撮影)



8. 第 2 火口の爆發夜景
前方外輪山上に赤熱熔岩が點在してゐる
(2 月 27 日 22 時 22 分 頃 山上神社南脇
高地から撮影)

昭和8年2月阿蘇火山の活動(其の3)

第1火口

第2火口

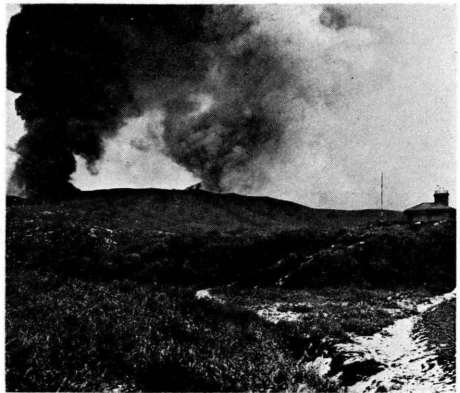


9. 第1, 第2兩火口の爆發夜景
(3月1日1時50分山上本堂附近から撮影)

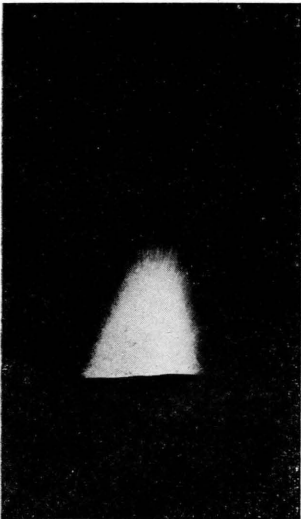
第1火口

第2火口

阿蘇火山
観測所



11. 第1, 第2兩火口の噴煙
(3月2日10時阿蘇火山観測所裏の
縣道上から撮影)



10. 第1, 第2兩火口の爆發夜景
(3月1日1時50分頃山上
本堂附近から撮影)

第1火口

第2火口

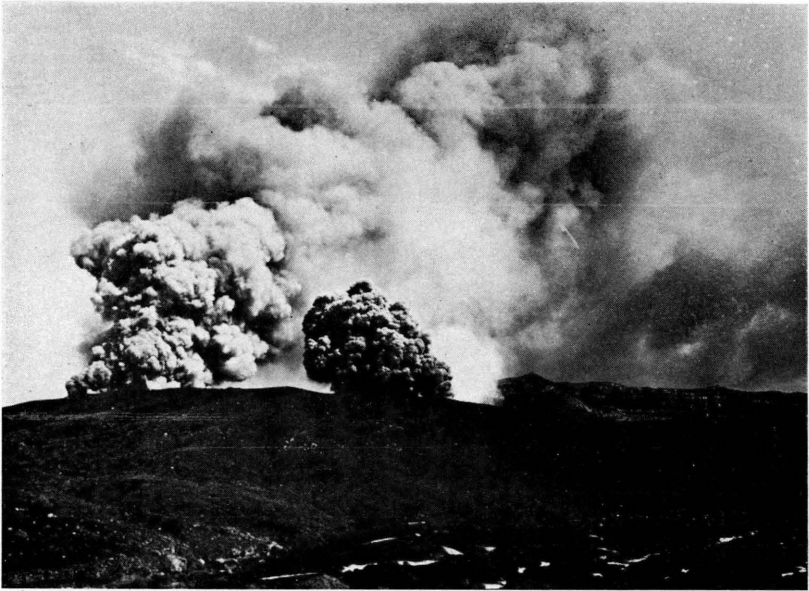


12. 第1, 第2兩火口の噴煙
(3月2日10時20分古坊中から撮影)

昭和8年2月阿蘇火山の活動(其の4)

第1火口

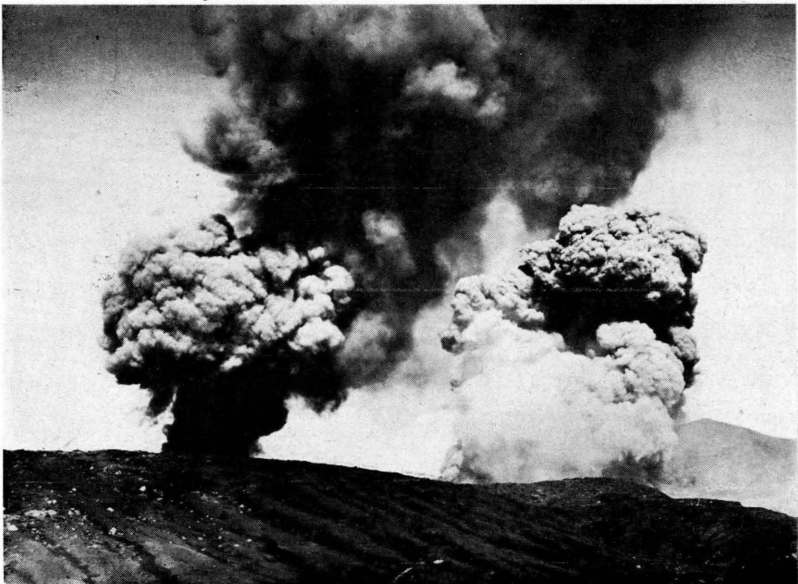
第2火口



13. 第1, 第2兩火口の噴煙
第1火口は白煙, 第2火口は黒煙
(3月2日山上神社南脇高地から撮影)

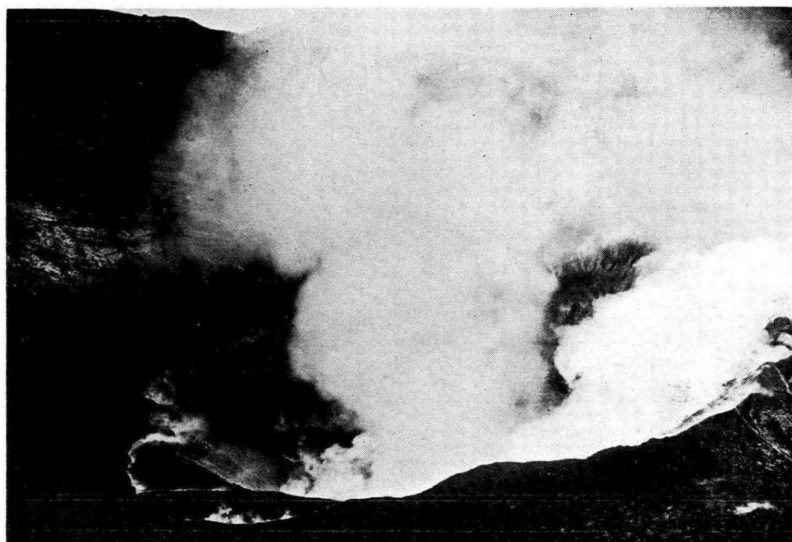
第1火口

第2火口

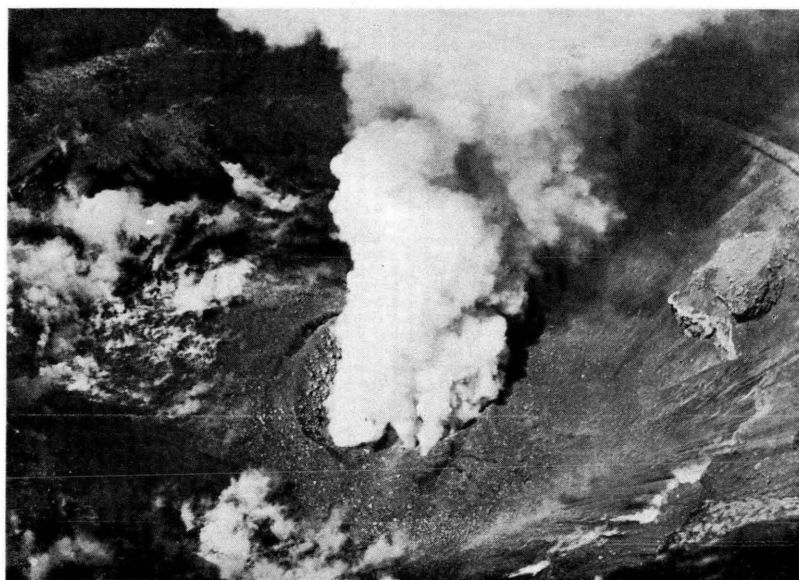


14. 第1, 第2兩火口の噴煙
第1火口は黒煙, 第2火口は白煙
(3月2日14時第3火口壁上から撮影)
(熊本測候所報告附圖)

昭和 8 年 2 月阿蘇火山の活動 (其の 5)

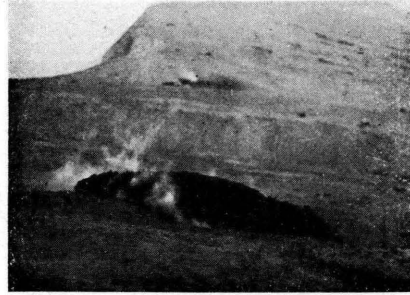


15. 爆發終熄後の第1火口 (昭和8年5月22日撮影)



16. 爆發終熄後の第2火口 (昭和8年5月22日撮影)

昭和 8 年 2 月阿蘇火山の活動（其の 6）



17. 第 2 火口抛出の熔岩塊（2 月 26 日撮影）



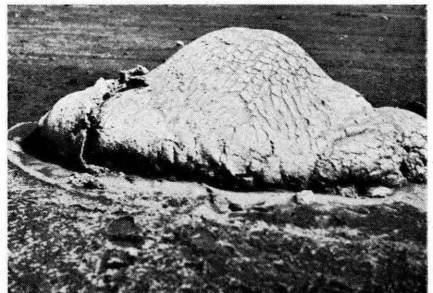
18. 第 2 火口抛出の熔岩塊「丸昭八」



19. 第 2 火口抛出の熔岩塊「平昭八」



20. 第 2 火口抛出の熔岩塊「砂千里石」



21. 第 2 火口抛出の熔岩塊「ヘルメット」帽石

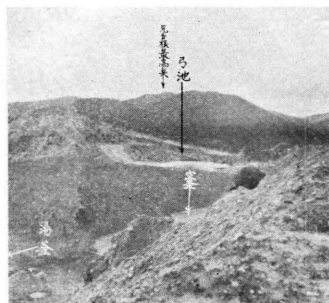
昭和 14 年 4 月草津白根山噴火の寫眞（其の 1）



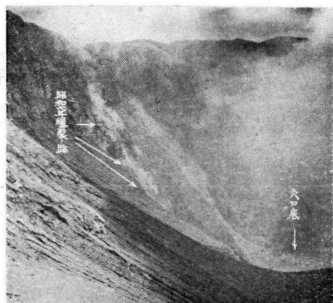
1. 主噴火口湯釜の全景〔北々東壁（寫眞2の×）より南々西に向けて撮る〕
（昭和 14 年 8 月 15 日寫）



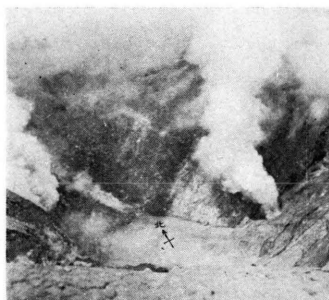
2. 湯釜北隅より南々東に向け水釜との關係を寫す（8 月 15 日寫）



3. 湯釜北壁より西南西に空釜弓池を望む（8 月 15 日寫）



4. 湯釜東壁上より南々西に火口内を望む（7 月 20 日）

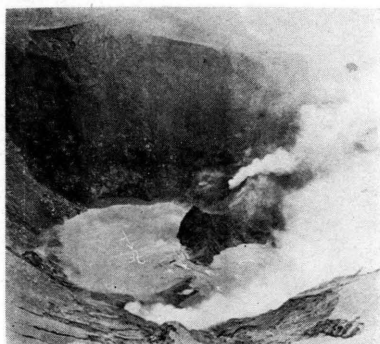


5. 湯釜南々西隅より北々東に火口底を望む（7 月 20 日）

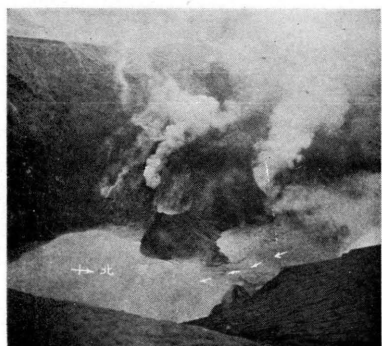
昭和 14 年 4 月草津白根山噴火の寫眞（其の 2）



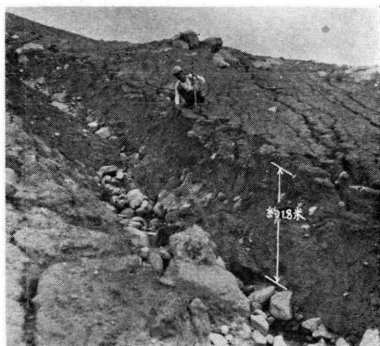
6. 湯釜南々西壁より火口底東側を望む（昭和 14 年 7 月 20 日）



7. 湯釜北東壁より南々西に火口底を望む 8 月 15 日）



8. 湯釜東壁より西南西に撮る（8 月 15 日）



9. 水釜東外壁斜面上の積灰（7 月 20 日）

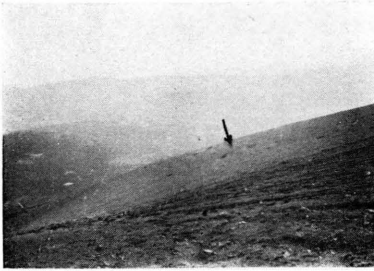


10. 水釜周囲の積雪上の積灰（7 月 20 日）



11. 湯釜南東 1 軒，入道澤西端の灰を被つた残雪（8 月 15 日）

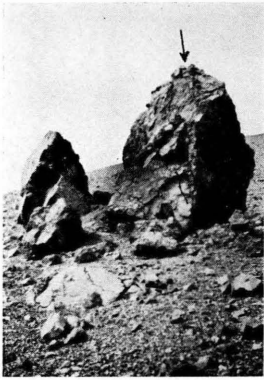
昭和 14 年浅間山噴火の寫眞（其の 1）



1. 火山彈で出來た大小の
穴を望む



2. 黒味勝玻璃質の熔岩が
縦に割れてゐる



3. 高さ 10 米周圍 10 米重量
概算 1,700 噸餘の大熔岩



4. 玻璃質大火山彈が花形に
割れてゐる



5. 玻璃質熔岩の横に
割れてゐるもの



6. 浅間山北東方最高所の噴氣
孔(○印)(8月18日撮影)

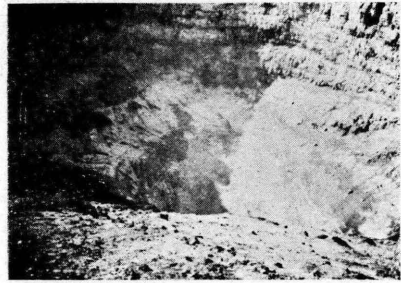
昭和 14 年浅間山噴火の寫眞（其の 2）



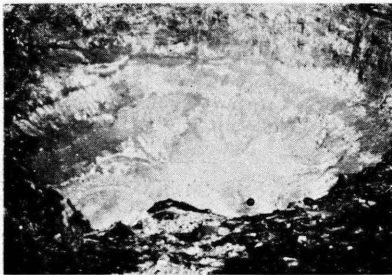
7. 浅間山火口底

● 赤色沸騰部

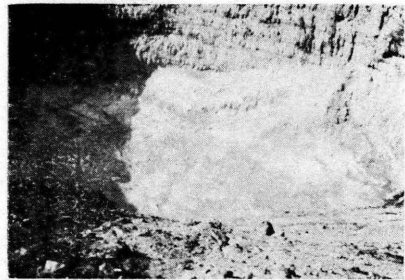
○ 凹部黄褐色硫黄沈澱部
(8 月 18 日撮影)



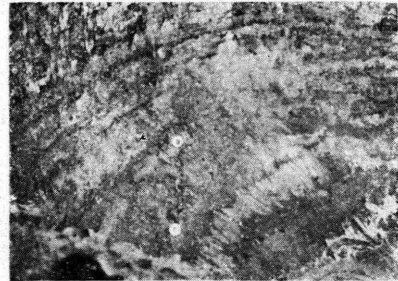
8. 浅間山噴火口底北側より西方を
望む (10 月 15 日撮影)



9. 浅間火口底を西方より北東に望む
水溜様な部分
白く見える箇所は全部硫黄である

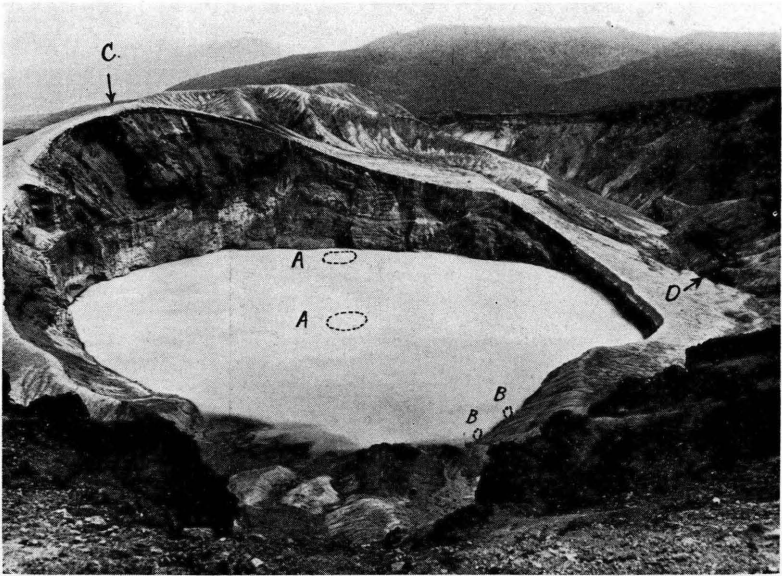


10. 火口底を東方より望む
(10 月 15 日撮影)



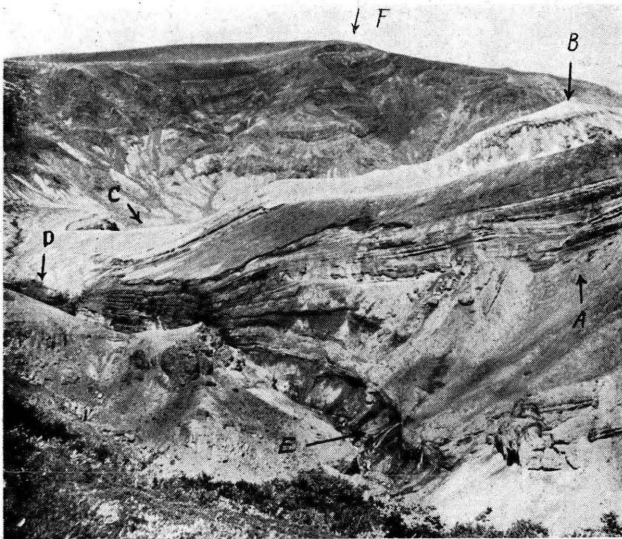
11. 西側火口底より約 50 米
上壁龜裂箇所より黄褐色
硫黄流下 (○印)

藏王山 寫眞 (其の1)



1. 御釜爆裂火口湖 (昭和14年9月12日寫)

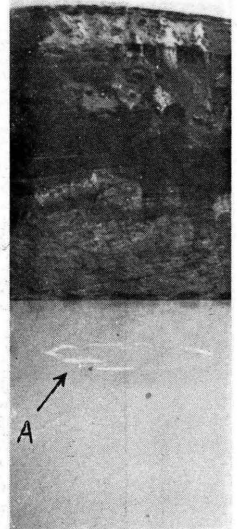
A 氣泡發生個所 B 噴氣孔 C 五色岳 D 濁川河口瀨の上部
火口原の水は砂礫層の間を滲透してより小瀑布となつて現はれ濁川を形成す



3. 五色岳の南面 (9月12日寫)

A 大黒爆裂火口の側壁, 砂礫の成層明瞭なり
B 五色岳の山頂 C 御釜爆裂火口
D 濁川火口瀨の上部 E 砂礫層を透して水の
F 熊野岳
流出する状態

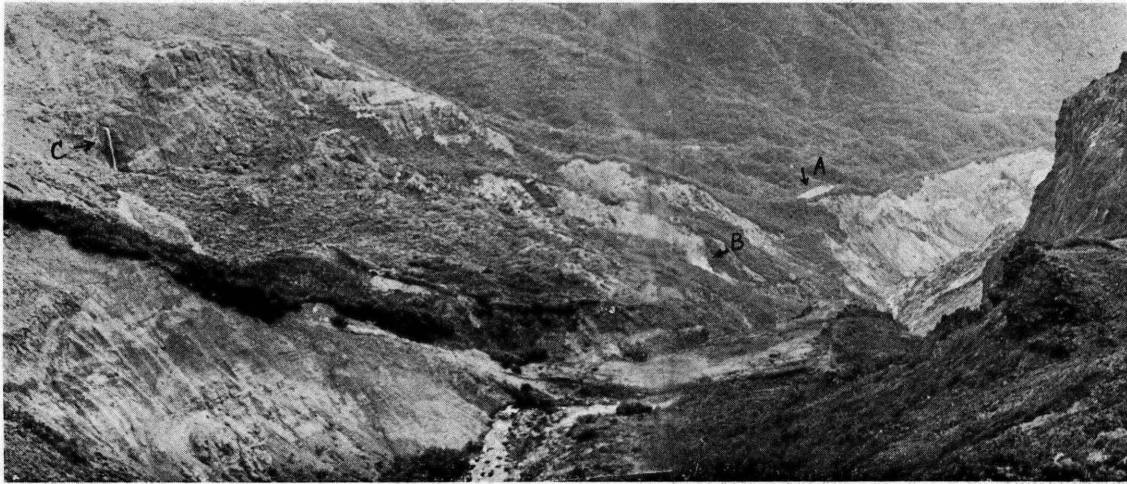
(植野報告附圖)



2.

御釜内の氣泡
(8月17日)

藏 王 山 寫 眞 (其 の 2)



4. 濁川火口瀬 (昭和13年9月12日寫)

- A 温泉湧出の復活せる新關温泉
- B 新しく温泉湧出し、湯氣盛んに昇る
- C 火口内の水が砂礫層を滲透し小瀑布となつて現はれ濁川に入る

(9月下旬の新聞紙によれば新關温泉附近に瓦斯の噴出多く小鳥野兎の斃死せるものあり)

(植野報告附圖)